

ータ版からスタートしてトライ・アンド・エラーのデータを蓄積してアップデートしていくもので、まずこういったシステムをつくるうと、これだったら結愛ちゃんの命は救えたはずだと、そういうものをつくらなきゃいけないのに、今各省連携というのも何もないですし、そういう、何のためのシステムなんだろ、何のためにお金を使うんだろうというふうに大変疑問に思います。

国の主導で行つたマイナポータルは何で利用が進んでいないのか。総務省が十八億円掛けて開発した情報漏えい防止システムは、なぜ二年間も一

度も使われずに廃止されたのか。今回、会計検査院の指摘によれば、省庁との調整が十分でなかつた、需要を十分把握せずに開発を進めていたからだそうです。この予算執行の前に、このシステムは一体何を実現するためのものなのか、必要性や関係者の使い勝手、費用対効果に至るまで、一番やつぱり文科省と厚労省が丁寧に検証、連携いただくこと、これをお願いしなきゃいけません。そうでないと、これ本当にただの情報交換システムになってしまいます。

そうではなくて、ありとあらゆる大人がありとあらゆる知見を持つてこの子供を救うためにいろんな情報を入れて、そして、例えばA-Iとかで自動でアラートを判別してかかるべきところに通報できるようにするシステム、これから増えるであ

ろう経験不足の児相の職員であつてもエビデンスに基づく判断ができるシステムが必要だし、これは構築が可能です。そのための予算を計上すべきだというふうに思います。

これは本当にこのまま進めることは決してなさらないで、ちゃんと文科省と厚労省がお互いの知識でもって一人の子供を守るように、ありとあらゆる関係者と調整をしてシステムを構築していただくことをお願いし、質問を終わらせていただきます。

○蓮舫君 立憲民主党の蓮舫です。

共通テストの中止を求める、僅か二週間足らずで全国の約四万二千人の高校生が署名を集め、昨日、文科省に提出しました。大臣、これ読まれましたか。

○国務大臣（萩生田光一君） 今朝、その写しについては目を通させていただきましたけど、全てを読み上げてはおりません。

○蓮舫君 四万二千人の声、二枚と十行です。なぜ読まないんですか。

○国務大臣（萩生田光一君） 今日、委員会等の準備がありましたので、その皆さんに提出をされたという経緯や中身についてはお話を聞きましたけれども、読むいとまがなかつたというのが正直なところです。

○蓮舫君 これだけのボリューム、そして四万二

千人の声を読むいとまがなかつた。その程度の認識だというのは、私は今、衝撃です。

これは、共通テストは致命的な欠陥が多過ぎるから始まる記述で、実際に具体的に問題点を高校生

や先生たちが列挙をしている。

その上で、国語、数学の記述式の共通テスト、もうこれ一年後に迫っているんですけども、大臣、導入を進めるのに自信はおありますか。

○国務大臣（萩生田光一君） 今回、大学入学の共通テストにおいては新たに国語と数学で記述問題を導入することとしておりますが、その採点を

確実に行うことや受験者の自己採点を行いやすくすることなど今後の課題となつております。大学入試センターと協力しながら必要な措置を講じ、円滑な実施に向けて万全を期してまいりたいと思います。

英語につきましては、これ正直に自信も責任も持てないということを申し上げましたけど、先ほどもちよつと触れましたように、この採点、今、高校生も含めて、こういった点が問題だという」とで提案されているものについては十分きちんと対応できると思っておりますので、その努力を続けさせていただきたいと思います。

○蓮舫君 自信があるということですね。

○国務大臣（萩生田光一君） 自信を持って責任を果たしてまいりたいと思います。

○蓮舫君 とはいへ、大臣は、今日のこの委員会でも課題があることを認めています。この共通テスト記述式、課題があると認めているけど自信は持っている。

文部科学省はこれまで、大きな大学入試の変更があるときには二年前周知をルールという、これを徹底してきた。英語の民間試験を導入するのは五か月前になつても分からることがあつて、混乱があつて、突然の見送りになつた。これは一年後です。

まだ課題があると認めているのに、どうやつて自信を持てるんですか。

○国務大臣（萩生田光一君） 二年前ルールにつきましては、要するに、教科、科目の変更については告知をしなくてはならないことになつておりますが、既にこの記述式を設けるということは公にしてまいりました。

問題点というのは、先ほども御指摘をさせていただきましたけれども、やっぱりその設問の在り方、採点の在り方、こういったもので十分改善ができる余地があると思つておりますので、三回目のプレテストをきちんとやらせていただいて、是非精度を上げていく努力をしたいと思います。

○蓮舫君 学生も保護者も関係者もやはり不安に思つているのは採点なんですね。この採点業務を受託した学力評価研究機構、六十二億円で受託。

ベネッセホールディングスの子会社です。今回先生がお送ったんですが、英語試験GTECを提供するのとはベネッセと進学基準研究機構。この三つの法人とも新宿の同じビルに本社を置き、進学基準研究機関の理事長は文科省の元事務次官でした。理事は財務省の元事務次官。天下り団体です。かつ、理事にはベネッセの副社長がいます。

テストと採点がベネッセ関係に集中したのは偶然ですか。

○国務大臣（萩生田光一君） 数学と国語の記述式の採点については、複数の業者の総合的な評価と入札によって決定をされたというふうに承知しておりますので、結果、偶然なんだと思ひます。

○蓮舫君 文科省の受検ニーズ調査では、民間英語試験を導入すれば、四月から十二月までの延べ百二十三万人が試験を受けるという試算です。試験料金、こればらつきあるんすけれども、仮に一万円と見積もつても百二十三億。しかも、高校二年生以下がお試しで練習で受検をしますから、百五十、二百億の大きな教育市場が生まれる。それをベネッセが独占するんじゃないですか。

○国務大臣（萩生田光一君） それぞれ、英語のときにもこの採点のときにも、きちんとした手続を経て選ばれた企業だということです。それで、採点事業者は大学入試センターとの契約において採点業務の遂行に伴いセンターから得た一切の情報について目的外で使用できないこととされているため、大学入学共通テストの問題を事前に問題集などに掲載するような行為は防止されています。

○蓮舫君 採点については独占になります。確かに独占になります。しかし、英語については、延期はしましたけれども、六つの団体が採用されましたので、そこはニュアンスは若干違うのかなと思います。

○蓮舫君 採点業務を受託したこのベネッセの子会社、成績情報や正答率を自社データとして管理できるんでしょうか。

○国務大臣（萩生田光一君） 管理することはできますけれど、それは守秘義務が掛かっておりませんので、他に転用することはできない約束になっています。

○蓮舫君 ベネッセは、全国の高校に模擬試験あるいは教材の営業も行っています。その管理をしている自社データを、その傾向も含めて使えないという契約ですか。

○国務大臣（萩生田光一君） そこは先生、私も同じ問題意識を持ちました。共通テストの記述式問題は入試センターが作成するものでありますので、採点事業者は大学入試センターとの契約において採点業務の遂行に伴いセンターから得た一切の情報について目的外で使用できないこととされているため、大学入学共通テストの問題を事前に問題集などに掲載するような行為は防止されています。

○蓮舫君 高校生は、誰がこの試験の実施を求めているんでしょうか。利権に駆られた文科省とベネッセ、当事者である高校生や高校の先生などの多くは望んでいません。

では、今の答弁だと、この高校生たちの認識は間違いですね。

○国務大臣（萩生田光一君） 企業の利益のために導入をしたのではありません。あくまで子供たちの学力向上を考查するための制度であります。

○蓮舫君 大きな大学入試共通テストの新たな市場は生まれておいて、そこに参画する企業が明確になつていて、でも、一方で置き去りになつているのは高校生です。だから、高校生たちはあなたの身の丈発言にこれだけ怒ったんじゃないですか。その認識、全く違うと思いますが、いかがですか。

○国務大臣（萩生田光一君） 高校生の皆さんに対する対応は、引き続きエールをしつかり送つてまいりたいと思います。

言うならば、何といいますか、経済圏をつくつてそれに合わせて試験を行うというのは、これは本末転倒な話でありまして、子供たちの評価すべき項目を結果として様々な会議を経て方向が決まって、そしてそれに合わせて、今回、民間を活用して採点をしていただこうという仕組みになつたと承知しております。

○蓮舫君 いや、英語試験はもう五ヶ月前で見送

つた、そして共通テスト記述式は一年前でも採点の不安は取り除かれていない、本末転倒そのものになつているじゃないですか。

先ほど大臣は、自己採点しづらい問題等を刻々と改善してきているとびっくりしたことをおつしやつたんですが、どうやつて改善したんですか。

○国務大臣（萩生田光一君） これ、文科省からも問題の意識を大学入試センターに伝え、大学入試センターと受託機構の間で様々なシミュレーションをしています。専門家の意見を聞きながら、どうしたら解答が言うならば狭い範囲で皆さんができると承知をしています。

○蓮舫君 そもそも記述式を導入したのは思考力や判断力を問うから、解答例は無限にあるんですね。その幅を狭めたら、そもそも導入する理由なくなるんじゃないですか。

○国務大臣（萩生田光一君） しかし、採点をしなくてはなりません。採点をするに当たって、できるだけ自己採点もしやすいようなものにしない限りはこの制度は成立をしないというふうに思いますが。

○蓮舫君 採点しなければならないのは最初から分かっていたんですよ。一回目と二回目のプレテストでもこの採点ミス出ていますよね。これどう

アルバイトの人が採点をする、ベネッセさんは衆議院の参考人で二万人いると言っていますけれども、一週間で五十万人を二万人の人たちでアルバイト、その精度がある程度高いと高校生に説明してください。

○国務大臣（萩生田光一君） 事業者に対して、適正な試験等によってまず質の高い採点者を確保すること、必要な研修プログラムを行うこと、採点者の質を向上するための取組を求めるとともに、まず一次採点は複数名で独立して行うこと、複数名の採点結果が異なる場合には採点監督者が採点結果の確認や不一致のあつた答案の採点などを行い、独立して採点した結果が一致するまで当該答案に対する採点作業を行うこと、採点作業中に適宜採点結果の品質のチェックを行い、その結果を採点作業の改善につなげることなど、採点の正確性を確保するための取組を求めていけるところでございます。

○蓮舫君 二週間で五十万人、その複数の点検で終わるんですか。

○国務大臣（萩生田光一君） 当然、本番前までにこういったことをきちんと仕上げていただいて、それに対応できる人たちを選んでいただくことを前提にお願いをしています。

○蓮舫君 本番前に仕上げるのではなくて、今仕上げておいていただかなければ受験する学生は不

安でしようがないじゃないですか。

○国務大臣（萩生田光一君） できるだけ早く制度を整えたいと思います。

○蓮舫君 自己採点の問題、マーク式だと自分の得点が分かります。その得点率を基に学生は第一志望に出願、あるいは自己採点次第では第二希望に切り替えて出願を行つてきました。記述式でもこれができますか。

○国務大臣（萩生田光一君） 採点結果と自己採点の一一致率につきましては、正答の条件が受験生にとつて捉えやすくなるように、正答の条件の意味や内容を分かりやすく整理して高等学校へ周知するなど、高等学校における指導の充実を促すことを通じて改善を図つてまいります。

○蓮舫君 正答の条件を高校生に周知して改善を図る、どうやってですか。

○国務大臣（萩生田光一君） 今まで二回のプレテストで明らかになつた問題点というものを整理をして、そして三回目、もう一度やらせてもらいましたけれども、その中で更に精度を上げていきました。莲舫君 過去二回のプレテストで採点の不一致率は三割ですね。かなり高いです。

つまり、自分では高い得点だと自己採点をして高い大学に出願をする、結果駄目だった場合、あるいは自分で低いと自己採点をして低い大学に

出願をする、本来高い大学に入れたのに低い大学にする、こういう事例が想定できるんですけれども、これは自己責任ですか。

○国務大臣（萩生田光一君） まさしくそういうことのないように、分かりやすい採点基準というものを示してまいりたいと思います。

○蓮舫君 済みません、一年前にこの課題がここまであって、高校生が声を出して専門家が指摘をしているのに、その答弁で本当に大丈夫ですか。できますか。

○国務大臣（萩生田光一君） 先ほどプレテストと申し上げましたけれども、準備事業ということでもう一度やらせていただきます。その中で全ての問題点をクリアにしていきたいと思つております。

英語につきましては、私、正直に自信と責任が持てないということを申し上げましたけれども、この制度は、日々皆さんからいただいている様々な声をタイムリーにきちんと伝えて、改善につなげることができます。

○蓮舫君 三回目のプレテストを行つて全ての問題がクリアする、クリアできなかつた場合には先送りありますか。

○国務大臣（萩生田光一君） プレテストではなくて準備事業なんですが、先送りのないよう

○蓮舫君 余りにも声を上げている高校生たちに寄り添つていない、不透明な答弁が多過ぎます。あなたは、英語の民間試験導入に関する衆議院の委員会で、この担当になつてからかなりの数

高校生のお話を直接聞いてきたと答弁したんですも、記述式に関しても伺つてきましたか。

○国務大臣（萩生田光一君） 記述式につきましては、高校生の声を聞いています。また、メールなどでも問題点を提案、指摘される高校生もいらっしゃいます。

○蓮舫君 文科大臣として、文部科学省が正式にセットをした記述式や英語民間試験導入の高校生の声を聞く場所というのは何回設けました、何人の問題点をクリアにしていきたいと思つております。

○国務大臣（萩生田光一君） そのような機会はないというふうに承知をしております。

○蓮舫君 どこで聞いたんですか、じゃ。

あなた、衆議院の委員会で高校生の声をたくさん聞いてきたというのを、友達の息子さん、お嬢さん、受験勉強をされている世代の人たちに聞いて、何人に聞いたんですけど、友達のお子さんに。

○國務大臣（萩生田光一君） 個人的に聞いた方もいますし、団体の中で、たまたま出席をした例ええばスポーツイベントの中で高校二年生の人たちが集まつていただいて、大勢の人数の中からお話を聞いたこともございました。

具体的に人数や回数を数えたわけではありません
んけれども、私なりに各方面の皆さんの方は聞いて
てきましたと自負しております。

○蓮舫君 そんなスポーツイベントの途中で共通
テストどうつて聞いたり友人の子供に聞いただけ
で、五十万人が受験して、そして来年、今年度受
験する五十万、一百万人に影響があるものをその程
度の認識で進めようとしてきたこと自体が、あなた
た、大臣の任にふさわしくないんじゃないですか。

○国務大臣（萩生田光一君） 関係団体等々、
様々な皆さんの方の声を聞いてきたと承知をしており
ます。

私なりに聞いたからこそああいう判断をしたの

であります。他方、この記述式につきましては、
先ほどから申し上げているように、制度上しつか
り前に向かって進んでいくことができるという確
信をしておりますので、問題点を一つ一つ解決を
していきたいと思っています。

○蓮舫君 学生たちが出した署名には目を通さな
い、読んでいない、実際に文科大臣として正式に
学生たちを集めて意見を聞いたことはしていない。
英語は見送ったけれども、まだまだ不明確な点の
多い記述式はなお進めていくという。

昨日、衆議院の予算委員会で、共通テストです
ね、大学入学希望者学力評価テスト検討・準備グ
ループの第一回から第九回の非公開になつてある

議事録は公開していくだけと言つております
けど、この参議院のこの文科委員会の理事会にも
出していますか。

○国務大臣（萩生田光一君） 会議の性質について
ではお話ししたとおりで、本来は非公開を前提に
会議をしたんですけど、しかし、テストを見送
ることになって検証しなくちゃなりません。その
ときに、一回から九回でどんな議論がされたのか
を明らかにしなくては検証になりません。発
言者の皆さんなどの了解を取つて、公開を前提に
今準備をさせていただいております。

もちろん、参議院の方にも公開をしたいと思つ
ています。

○蓮舫君 黒塗りと改ざんをしないでいただき
たいとは要望させておいていただきますが、一方で、
本当に不明瞭なことが多過ぎるんです。これ、唯
一知つておられる方が一人おられます。自民党的
教育再生実行本部の初代本部長、あなたもそのど
きその本部の委員の一人ですけれども、をして、
英語の民間試験導入を党として政府に正式に要望
して、そして要望を受ける側として文科大臣にな
つた下村衆議院議員、三年間大臣をして、そのと
きにこの制度設計はほぼ完成されています。その
ときの情報がほとんど公開されていないんです。

下村衆議院議員にも検証ではヒアリングをされ
ますか。

○国務大臣（萩生田光一君） 歴代文科大臣にも
その経緯は是非お伺いしたいと思っています。

○蓮舫君 あなたが英語の民間試験導入を諦めた
一日、同じ日に参議院自民党的世耕幹事長が、萩
生田さんが大臣就任前の文科事務官の詰めの甘さ
が原因だと発言していますが、同じ認識ですか。

○国務大臣（萩生田光一君） 事務官職員の皆さ
んは一生懸命やつてくれたと思います。

そもそも、その制度そのものに限界があつて、
結局、改善をしようとしても動けない状況
にヘッドロックしてしまつたというものが正直など
ころでござりますので、職員の皆さんのお認識とい
うことではありません。

○蓮舫君 その制度を進めてきたのが自民党的教
育再生実行本部であり、それを受けて政府に設置
された教育再生実行会議なんですね。そのときの
平等主義から脱却し、トップを伸ばす戦略的人材
育成、教育が投資効果が最も高い。結果行つてき
たのは、大学受験に企業の競争原理を導入する、
ある意味、教育の公設民営ですよ。

でも、この間広がつてきたのは格差です。学生
たちは結果の平等の前に入口の不平等に立たされ
ているんです。お金がなければ大学行けない、奨
学金も借りれない、大学を諦める、こんな実態が
進んでいるのに、グローバル人材だ、結果の平等

よりもトップを伸ばすんだ、この認識そのものが間違っている。

萩生田大臣が行うのは、六年前の自民党的提言が今の時代と合わないからこの提言そのものの見直しであつて、英語民間試験の導入の先送りは廃止、それと共通テスト記述式は廃止、そしてそこから再設計をするべきだと思いますが、いかがですか。

○国務大臣（萩生田光一君） 英語の試験については延期を決定しました。きちんと検証して、なぜこういう形になつたのか、何が問題か、今六年前の党の提言について触れていただきましたけれども、もちろん時代の変化も物すごいスピードで行われておりますので、六年前の提言そのままではなく、やっぱり今の時代に、足を止めた以上はその必要性というものをもう一回きちんと検証してみたいと思います。

記述式の試験につきましては、先ほど来申し上げているように、責任を持つて、いいものにしつかりしていきたいと思っています。

○蓮舫君 英語試験見直し、遅きに失した、その判断ミスを行つた萩生田さんが私は新たな制度設計ができるとはとても思えないと改めてお伝えをさせていただきます。

以上です。終わります。

〔委員長退席、理事赤池誠章君着席〕

○水岡俊一君 立憲民主党の水岡俊一でございます。

質疑に入る前に、一言申し上げたい」とがござります。

本日の委員会、一週間前にもう既に決定をしております委員会です。本日はほかにも委員会が開催予定で進行していただけますけれども、突然衆議院の本会議が割り込んで、この当委員会も午後の審議が一時間以上もずれ込むということになつたわけですね。

私の記憶では、かつてこういうことがあつたら、これはもう与野党を超えて、参議院をばかにするなど、ひどいじゃないか、だから衆議院は考ふるということだ、衆議院のその本会議と委員会と変更を求めたと、こういうことがあつたわけですね。でも、現在、そういう動きになつていらないということを、これは与党、野党超えて、参議院の存在をしっかりと再認識をして、衆議院に対しても、

○水岡俊一君 政府が大変強い権限を持っていらっしゃるので、衆議院に対して大きな圧力を掛けたのではないかと、私はそういうふうに思つておりますが、笑うところじやないです。

さて、私の方からは、冒頭、赤池委員からも灾害のことについて触れていただきましたので、私も災害のことについて質問をしていきたいというふうに思つております。

この間、台風の影響あるいは秋雨前線の影響で、各地で災害が起きております。被災地の方々の御苦労を思うと、本当に胸が痛みます。心よりお見舞いを申し上げる次第であります。

そこで、本日の衆議院の本会議はなぜ設定をされたかなど、萩生田大臣所管の給特法が提案をされるというように聞いておりますが、そういう意味では、多大なるその影響を参議院に与えたという意味で、大臣の御所見ありましたらお伺いをしたいと思います。

○国務大臣（萩生田光一君） 確かに、衆議院の方で給特法の改正案を提案、読ませていただくことになりますので、結果として、今先生御指摘のように、参議院の皆さんとの日程に御迷惑を掛けたことになつたんだと思います。

ただ、国会日程につきましては国会の皆さんにお任せをしておりますので、私どもとしては、求めに応じて出席をさせていただいておりますので、

思いは受け止めさせていただいて、しっかり対応していきたいなと思っています。